

岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 32 (2018. 5 発行)

今年の第21回学術講演会は、岐阜・西濃地区が実行委員会を立ち上げ、準備に取り組んでいます。皆様、どうぞ期待ください。



発行所：岐阜県嚥下障害研究会
 事務局：土岐市立総合病院 ST 室

「生活に寄り添った食支援」

第 21 回学術講演会
 岐阜・西濃大会
 大会長 安田 順一
 (朝日大学歯学部口腔病態
 医療学講座障害者歯科学
 分野 准教授 歯科医師)



この度、第 21 回岐阜県嚥下障害研究会を、2018 (平成 30) 年 11 月 25 日(日)に朝日大学(瑞穂市)で開催させていただきます。朝日大学での本大会の開催は、第 5 回に引き続き、16 年ぶり 2 度目の開催となります。

大会テーマを「生活に寄り添った食支援の取り組み」としました。摂食機能は、口腔や咽頭などの障害だけでなく、認知機能や上肢の運動機能などさまざまな原因によって障害されるため、患者個々に合わせた専門家の支援が必要です。食は生活の支えであり、摂食嚥下リハビリテーションは、医療機関だけで完結するものでなく、各施設や家庭などの生活の場に寄り添い、口から食べる喜びを守り実行する学問と言えます。障害の部位や、生活の場の違いによって関わる職種はさまざまですが、それぞれの専門性をいかして多職種で情報共有し協働することが、食支援の鍵になります。本大会では、食支援について地域で実践されている方々のお話をいただき、理解を深めていきたい



と思います。

午前の特別講演は、舘村 卓先生 (たちむら たかし：一般社団法人 TOUCH 代表理事・(元)大阪大学准教授・歯科医師)をお迎えし、ご講演をいただきます。先生は摂食嚥下障害と音声言語障害の臨床家であるとともに研究者であり、この分野の草分け的存在の一人です。病院・施設での摂食嚥下障害の評価と口腔機能向上プログラムの提供をされています。フローチャートによる摂食嚥下障害への対応や口腔ケアに関する著書として「摂食嚥下障害のキュアとケア：医歯薬出版」、「口腔ケアプログラムの作り方：永末書店」など上梓され、先生自身が主催されている嚥下セミナーの一部を YouTube で公開されています。

午後からは、渡邊雄介先生 (わたなべ ゆうすけ：一般社団法人ネクストドア 代表理事・作業療法士) のご講演をいただきます。先生は、岐阜市で重症心身障害のお子さんならびにご家族への支援を専門とされています。医療機関でのリハビリテーションや療育の経験を活かし、障害児の教育の質の向上のために、保育士や特別支援学校の教諭向けの講演活動や、保護者向けの講演活動なども多数なさっておられます。

その他にも、食支援に携わっている先生からの実践報告を企画しております。

学術講演会への申し込み方法や詳しい内容は、8 月頃にご案内すべく、実行委員全員で準備を進めております。実り多き学術講演会に致したいと存じますので、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。



第3回 研修会レポート

小児症例検討会に参加して

岐阜希望が丘特別支援学校
教諭 石原 裕也

摂食に関する指導、支援を始めて、約1年半になります。今まで参加した研修では、支援者がスプーンや箸を持って全介助する支援方法を学んできました。私が担当する児童も、ほとんどが全介助を必要としています。1名だけ自食に向けた支援を進めている児童がいます。そこで、自食の支援方法を学ぶために、今回の研修に参加しました。

研修では、自食に取り組んでいる児童の摂食場面の映像を視聴し、「手づかみ食べ」「スプーン食べ」「コップ飲み」の3場面について評価しました。評価項目は認知面や動作面などの項目に分かれており、特に認知面の「食べることへの欲求・志向性」「自分でやりたいという意欲」が自食においてポイントとなると感じました。グループ討議では、実際に評価した内容について発表をしました。他者の意見と比較すると、人によって評価にずれが生じていることが分かりました。このことから支援を考えていくために、担当者一人の視点だけでなく、多くの視点で評価することの大切さを感じました。

今回の研修では、講師の野沢先生の介助による、直接指導の様子を参観させていただきました。参加者からの要望に応じて様々な支援方法を見せていただき、支援を減らしていくことで、児童の自主的な行動につなげることができることを学びました。また、自主性を引き出せるような支援を進めるにあたり、児童の「社会性」を考慮し、生活年齢に適した手づかみ食べの食材（スナック菓子等）を使い、実態に応じた食具や介助皿の使用で自食がしやすくなることが分かりました。

今後も、担当する児童の、自分で食べたいとい

う意欲を育て、食べる喜びが感じられるよう、支援を続けていきたいと思いました。

日時：平成30年2月4日（土）10:00～16:30

会場：希望が丘こども医療福祉センター

日程：10:00～ 症例検討会Ⅰ ①～③

提案者 岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校

教諭 高田 亜希子氏

11:30～ ケース児の食事場面の検討 ④

14:00～ 講師によるまとめとミニ講義 ⑤

助言者 この街きっず学園

言語聴覚士 野沢 由紀子先生

第4回研修会レポート

「念願の頸部聴診法」

美濃市立美濃病院

言語聴覚士 田中愛子

「頸部聴診法ができたらどんなにいいだろうか」「頸部聴診法をやってみたいけどどうすればいいのかわからない」と頸部聴診法にあこがれを抱きつつ、手を出せないでいる仲間が多いはず。実際に私も職場の引き出しに眠ったままのマイ聴診器を、さる年末の大掃除で発掘し、「こんなところにあったのね」と久しぶりに手にしたところでした。それがまさかのタイミング。あの大野木先生の講演を拝聴できる機会がやってくるとは、嚥下の神様が「頸部聴診法」をやるべきだと言っているとしか思えませんでした。

講演内容はとても素晴らしく、短い時間の中、嚥下の解剖に始まり、たくさんの嚥下音のサンプルを聞き、実際にペアになって聴診器を使って嚥下音を聞きあう実習まで行い、とても内容の濃いものでした。講演が終わるころには、自分の中にあったもやもやした未知の世界がぱっと明るくなったようで、何か、一つ強力な武器を手に入れたような気分にもなりました。自分の評価は正しい

のかと悩み、迷いながら、誤嚥というリスクと隣り合わせの障害と向き合わなければならない日々。「頸部聴診法」はきっと私たちの強い味方になってくれると思います。

明日からさっそく実践し、スキルアップできるよう耳も鍛えていきたいと思います。私の聴診器もやっと出番がやってきて喜んでいることでしょう。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただき、大野木先生、研究会のスタッフの方々にお礼を申し上げます。

私が勤務している施設では、医師・看護師・介護士・言語聴覚士・管理栄養士・理学療法士・歯科衛生士で構成された嚥下チームがあり多職種で食支援に取り組んでいます。その一員として食べることに携わらせて頂いていることもありとても興味深い研修でした。

講演が始まり、口から食べることの意義、口から食べるということは、いのちに力をそそぐのだと、小山先生のお話には私はどんどん引き込まれていきました。時に食支援は食べる「機能のみ」を見がちになり、そこにある食べる「ところ」が置き去りになってはいないだろうか、食べることの意味を考えサポートできているのかと自問自答するときもあり、今回の研修でもう一度食べることの価値観について、死生観・職業観をもって見つめ直すよい機会を頂きました。

研修後、一緒に参加した看護師と食べるをサポートするために施設では何ができるかと考え、まずは講義にあった安全・安楽・自立性を意図した姿勢調整をやってみてはどうかと話し合い、施設の嚥下チーム会議に議題として取り上げ検討をし取り組むこととなりました。姿勢調整も一朝一夕でできることではなく長期戦となります。始まったばかりで試行錯誤しながらの取り組みです。小さなあゆみかもしれませんが、ですがいつも笑顔ある食を囲む食卓作りができることを目指していきたいと思います。そして歯科衛生士として、食べられる口をサポートし続けて行きたいと。

日時：平成30年3月10日（土）13:30～16:30

会場：朝日大学

1. 発表 20分×3名

①「最期まで食支援を行うための方向性とは？」

特養老人ホーム ほほえみ福寿の家

歯科衛生士 伊藤ひとみ氏

②「在宅で摂食嚥下評価を行ったアルツハイマー病の1例」

朝日大学 歯学部 安田順一氏

③「多系統萎縮症（MSA-P）による振戦に対し有用なスイッチの検討」

国立病院機構 東名古屋病院 言語聴覚士 坪井丈治氏

2. 講演 90分

「頸部聴診法の実際」講義と実習

小笠原訪問看護ステーション

言語聴覚士 大野木 宏彰先生

平成30年度 第1回研修会レポート

「食べるをサポートするために」

介護老人保健施設 巣南リハビリセンター

歯科衛生士 氏名：平方 穂子

今回の研修案内を拝見したとき、「小山珠美先生の講演が聞ける」、しかも会場は近隣である朝日大学。そして岐阜県嚥下障害研究会の会員であるため会費は無料と驚きの案内文。これは是非とも！と思い職場の看護師と参加させて頂きました。





研修会・学術講演会案内

第21回 摂食嚥下リハビリテーション 初級課程講習会

日時：平成30年8月26日（日）
9時30分～16時10分

場所：タウンホールとみか

- 内容：1. 摂食嚥下のメカニズム
 2. 摂食嚥下障害者の加齢による影響
 3. 摂食嚥下障害の評価
 4. 間接訓練、直接訓練
 5. 小児の食支援（発達と支援）
 6. 食支援に必要な血液生化学データの基礎知識
 7. リスク管理：低栄養、脱水、誤嚥、窒息、
 8. 口腔ケア（演習を含む） など

講師：加藤孝憲氏 土岐市立総合病院 言語聴覚士
 川口千治氏 朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生士
 柴田一浩氏 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター
 豊島義哉氏 国立病院機構 東名古屋病院 言語聴覚士

参加費：会員2,000円 非会員3,000円
定員：50名

会費納入のお願い

納入金額：年会費 1,000円
 未納者は宛名ラベルの西暦横に未と記しています。
 振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会
 口座番号 00890-3-114142
 ＊通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。
 ＊“振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
 ＊2年間会費を滞納すると、退会となります。
 (注) 未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！
 問い合わせ:土岐市立総合病院リハビリテーション部
 言語聴覚士 加藤まで
 メール または FAX 0572-54-8488

Mai:
gifukenengesyougaikenkyukai@yahoo.co.jp

第10回 小児領域摂食指導講習会

日時：平成30年8月19日（日）9時半～16時
場所：朝日大学 1号館 3階 第4大講義室

内容：「発達期の“食べる”を支える」
～摂食嚥下の評価と支援～

講師：田村 文誉先生（多摩クリニック 歯科医師）
 9:00～ 受付
 9:30～12:00 講義「摂食嚥下の評価」
 12:00～13:00 昼食・休憩
 13:00～15:30 講義と実技「支援の実際」
 15:30～16:00 質疑応答・事務連絡等

参加費：会員 4,000円 非会員 5,000円
学生 2,000円

定員：100名（先着順）

締め切り：平成30年8月3日（金）必着

第21回岐阜県嚥下障害研究会 学術講演会 岐阜・西濃大会

テーマ：生活に寄り添った食支援の取り組み
 日時：平成30年11月25日（日）
 場所：朝日大学 6号館2F 6203
 10:00～12:00 講演1
 「口腔機能の向上と口腔ケア」仮題
 館村 卓先生（一社）TOUCH 代表理事（歯科医師）
 前大阪大学大学院高次脳口腔機能学講座 准教授
 12:00～13:30 摂食嚥下および歯科関係展示配付
 13:30～15:00 講演2
 「作業療法士の視点からみる食支援～姿勢と食事動作～」仮題
 渡邊 雄介先生（一社）ネクストドア代表理事（作業療法士）
 15:15～16:00 実践報告 2～3名
 参加費：会員 2,000円、非会員 3,000円、学生 無料

編集 就職、異動などで新しい職場での業務にも漸く慣れてきた方も少なくないと思います。
 後記 9月の日本摂食嚥下リハビリテーション学会で研究会の20年間の活動報告をする予定です。TOYO